

令和5年度 那珂川町立小川小学校 学校評価

評価項目				
各学校での目標（重点は○数字）・具体策	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評でいただいた意見等
<b>I 特色ある学校づくりのための学校運営</b>				
1 学業指導の徹底と居がい感のある学級づくり	A	○学年関係なく遊ぶ姿が見られ、児童同士の人間関係は良好である。 ○各教科の授業でICTの活用が進んでいる。児童も抵抗なく使いこなし、学習の効率化につながっている。 ○ゆとりのある日課である。 ○地域人材の活用や文化・自然環境を活用した校外学習などが計画され、学習効果につながっている。	・ICT活用実践を共有する。  ・すき間読書を奨励し、読書時間を確保する。	・読書に親しむ時間を作ってほしい。
2 学習に働きかける環境づくりの推進	A			
3 創意ある教育課程	A			
<b>II 確かな学力の向上を図る学習指導</b>				
1 基礎学力の向上と定着	A	○算数科の少人数指導の効果が出てきている。 ○「那珂川スタイル」が定着し、基礎学力が向上してきている。 ●各教科においてアウトプットを意識した授業が行われているが、自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童がいる。	・「那珂川スタイル」の他教科への拡充。（算数科はアウトプットの工夫） ・意図的にペアトークの場を設け、指導を継続していく。 ・「自分の考えを伝えるということも発表であること」を児童と教員で共有して実行する。	・自分の考えを表現するのが苦手な児童が多いようだが、「あいさつができること」「自分の気持ちを表現できること」と考えることもできる。
2 問題解決学習や探究的な学習の実践	B			
<b>III 自己指導能力を高める児童・生徒指導</b>				
1 規範意識の向上とあいさつの習慣化	B	●粘り強い指導により、言語環境の改善を進めていく。（言葉遣いの指導）  ○教職員は児童の話に耳を傾けて問題解決にあたっている。	・学年だよりや学年PTAで保護者に啓発活動を行う。保護者にも「言語環境の整備」の意識を高めてもらう。 ・人権の木を活用し、「プラス（ふわふわ）言葉」を使うように努める。 ・教職員全体で児童に関わり、思いやりのベースを作る。	・知っている人には自分からあいさつができてほしい。あいさつができる、できないというのは、生活環境による影響が大きい。 ・マイナス（ちくちく）言葉は使わないようにさせたい。
2 自尊感情の育成	A			

IV 健康・安全、体力の向上		○運動量を確保した体育の授業に努めるとともに、児童は個人のめあてや目標をもって体育の授業に臨んでいる。	・体力アップの時間の確保が難しかったので、設定時期ややり方を検討する。	
1 めあてをもった体力づくりの充実	A			
2 健康教育の推進	B	●体育実技の指導における更なる安全確保が必要である。	・T Tによる実技指導や児童の安全確保のための留意点に関して校内研修を行い、共通理解を図って実施する。	
3 命を大切にする子の育成	B	●生活習慣や生活リズム等については家庭との連携が必要である。 ○雷雨時の下校対応や災害時の引渡し訓練が組織的に実施できた。 ●校庭での遊び方や廊下・階段の歩き方等について指導の必要がある。	・各種たより等で啓発を図ったり、該当家庭に連絡し協力を仰いだりする。  ・学校のきまりや遊び方の約束について再確認し、学級活動や日常指導の場面で、安全について児童自身で考えさせる指導を行い、児童の危機回避能力を高める。	
V 家庭・地域との連携		○ホームページの更新を進めている。	・引き続き子どもたちの様子をホームページ等で発信していく。	・いろいろな体験や交流活動を今後も取り入れていく。
1 地域とともにある学校づくり	A	○コミュニティスクールが順調に進んでいる。	・学校支援ボランティアの協力を得ながら、地域とともにある学校づくりを更に推進していく。	
2 地域・関係機関・家庭との連携	A	○学校支援ボランティアがたくさん入ってくれたので、子どもたちの学びに広がりができた。 ○家庭とこまめに連絡を取り合っている。 ●学校からの連絡内容等が伝わらない家庭がある。	・配布通知等をホームページにアップして周知する。また学年P T A等で家庭への周知し協力を得る。	